

魅力的な先生との出会い、 一生忘れない授業、**「マイ」**にあります

06

この授業が 受けたい!

筑波大学附属
東京都文京区 [国立大学附属校 / 共学校]

英語 **肥沼則明** 先生



今日の
テーマ **現在進行形の
疑問文**

「聞く」「話す」を重視した活気ある授業

筑波大学附属の英語は、中1からほぼ全てが英語で行われる。板書は少なく、生徒たちは、視線を先生、あるいは教科書にしっかりと注ぐ。「聞く」「話す」を重視した授業で音読が多いが、単調な繰り返しではない。1人ずつ、一斉に、隣り合う男女で交互に。先生は多様なパターンの練習方法をテンポ良く指示する。生徒1人1台レコーダーが用意され、各自、音読を録音するのも特徴的だ。それを家で聞き直して復習する。家庭学習ともうまく接続された、会話を大切に授業は、先生と生徒の関係が築けているからこそ実現できる。

1月20日(金)
中1 英語

①英語のあいさつから 元気よく始まる

冒頭の雑談も英会話で、How are you? という先生の問いかけに、生徒からは「Hungry」、「I'm tired」と元気な返事が飛んでくる。「彼は欠席ですか?」「先生、暑いのでエアコンを止めてください」といったやりとりも、もちろん英語!



Hello,
Mr. Koinuma!

②音読したり、単語の つづりを確認したり

教科書の本文を1人1文ずつ音読していく。新たに学んだ単語のスペルは、みんな指を動かして確認する。先生は単語のカードを見せ、答え合わせをしながら発音を練習。



S.p.a.n.i.s.h!



③男女ペアで音読して、 録音して...

音読の方法はさまざま。1人ずつ読むだけでなく、隣同士の男女が会話調の教科書の本文を交互に読んで練習する時間もある。レコーダーに吹き込んだ自分の音読は、家庭学習に活用。



④最後の最後で 文法を確認

音読と会話を繰り返し、頭の中をしっかり語順を身につけたら、文法を確認。もちろん、新たな文法の習得など肝心な場面では日本語を用い板書も。単に「暗記すべき公式」を記すだけでなく、これまでの学習内容を踏まえ、みんな考えて案出した答えを書く。

国立大学の附属校として、教育実験を続ける筑波大学附属の「英語で行う」英語の授業には、百年以上の歴史があります。「聞く・話す」を大切にすることを肥沼則明先生に伺いました。

授

業はほとんど英語で進めます。「聞く」「話す」を特に重視しているからです。まずは聞いてわかるようになる、それを言えるようにする。発音良く、リズム良く、を目指します。音読のパターンもさまざまです。「リピート・アフター・ミー」だけでは飽

きてしまいますからね。板書はあまりしません。黒板の文字を目で追って読んでいては身につかないのです。文法も、会話の中で「歌を歌う」ように体で覚えます。結果、生徒たちは文型や語順といった英語の構造に、自然と気づきます。「教えないで」「気づき」を促すのがミソです。何も、私が特別な教え方をして

いるのではなく、本校では英語科全員がこうした考えに基づいて授業を進めています。さかのぼれば、本校の「英語で行う」授業は、1910年には行われていました。

現在の語学教育研究所を創設した英国人の英語学者ハロルド・E・パーマーは、20年代に「オーラルメソッド」を提唱し、本校で実践しました。それ以来の伝統です。発音がわからないのに、つづりを書かせるのは性急です。「make」はなぜ「メイク」と読むのか、発音とつづりの関係も教えます。

自

主性の重視は本校の基本。授業でも極力、生徒に発言させ、それを教師が「拾う」ことで進めていきます。たとえ正解でなくても、「そういう考え方もあるね」と受け止める。すると生徒も「発言していいんだ」と思える。結果的に学習意欲を喚起します。教える側からすれば「与える」ほうが効率的ですが、それでは生徒が受け身になってしまいます。

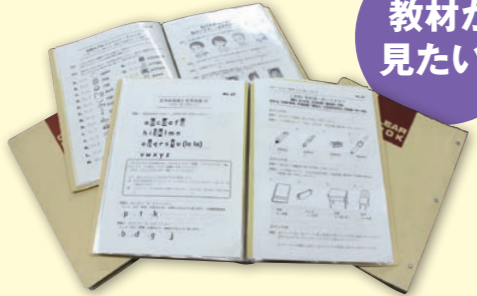
以前は私も「与える」授業をしていました。でも、違うなと思っていて。そこで約20年前に教師を続けながら大学院に通い、全国の「名人」と言われる先生の授業を研究しました。共通していたのは教授技術の高さだけでなく、生徒との関係をしっかりと築けていたこ

授業で繰り返す会話と音読が、
英語力にとどまらず、
今後役立つ表現力となります



が評価される今後の大学入試は、本校の生徒にとってチャンスです。生徒たちは「Reading Show」(全学年で行う演技も交えた音読テスト)などで人前で発表したり、英文で自己表現したりする機会を通じて、大学や社会でも役立つ「プレゼン力」を身につけていきます。

教材が 見たい!



中1の最初の6週間に、導入として用いられる英語科独自のプリント教材。「音から入る」方針に基づき、アルファベットも子音から、破裂音、摩擦音、その他、母音の順に学ぶ。所々に漫画のキャラクターが登場し、楽しみながら英語に親しめる



教科書は検定教科書「NEW CROWN」。音声教材やイラストなども用いながら授業を進める。英語科の先生は全員同じ教材を用い、進度も一緒。クラス替えがあっても安心だ

ICレコーダーは全員分用意されている。SDカード式なので、データを持ち帰って自宅のパソコンなどでも練習できる。この学習法については、入学時の説明会で保護者にも説明し、協力してもらう